香川県

全国初 県の補聴器助成がスタート

増田さんが事務局長を務めるみみの会連絡会の総会（今年６月）

香川県では今年度から、全国初となる県から個人へ、補聴器の購入を直接補助する事業がスタートしました。65歳以上を対象に、補聴器購入費の２分の１、上限３万円（１人１回、850人分）です。私たちの運動が実ったものです。

昨年、団体・個人が合同し〝香川みみの会連絡会〟を結成。県健康福祉部へ申し入れ、「加齢性難聴と補聴器・認知症」の学習懇談会を持ち、新婦人も参加しました。国の施策の動きがあることや、香川県が助成ゼロ自治体の全国ワースト３県であることなど共通認識ができました。私たちは、県に対して、啓発、受診、適切な補聴器の選定、購入後のフォローアップを含めたパッケージ事業としての補聴器助成を、市町村に先行する事業として実現するよう要望。そのことが、今回の事業実現につながりました。県への加齢性難聴についての講座には、手続きの説明や講座の増設などの要望が反映され、市町が事業を推進しています。

新婦人も、２市１町の懇談や、県本部での報告会を機会に善通寺支部学習会などが実現。今後は、市町村の補助の実現、さらに県補助の継続と拡充を求めていきます。**（新婦人香川県本部委員／香川みみの会連絡会事務局長　増田順子）**

三重・玉城支部

「制度使って買ったよ」のうれしい声

20人足らずの小さな支部ですが、町で唯一のスーパー前での宣伝や、団地などを一軒いっけん回って170人分の署名を集め、町長と交渉。昨年４月から補聴器助成が実現しました。

とりくみの中で、高齢者から「車の近づく音が聞こえなくて怖い」、若い人も「家族が医師に補聴器をすすめられた。補助制度があったらいいですね」など、世代を超えた期待が寄せられました。実現した制度は、65歳以上を対象に、購入費の２分の１、上限は住民税非課税世帯では３万円、課税世帯は１万5000円、人数制限なしです。

さっそく、ご近所の方から「制度を使って、補聴器つけたよ」の報告も。昨年度は12人が利用、今年は３人が申請しています。新婦人のチラシや宣伝でも知らせ、さらに拡充していきたいです。**（新婦人玉城支部事務局長　中西清美）**

補聴器は、週に2、3回の使用では効果が出ず、毎日「使う」ことで神経細胞同士の結びつきが変化していくと考えられます。小さな音から始め、少しずつ音量を強めていき、およそ数カ月かけて目標とする音量で装用できるようになります。

悩んでいたら、まずは「補聴器相談医」に相談してほしいと思います。

最寄りの相談医は、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会のホームページから探すことができます。

補聴器の装用は、耳と脳の健康のためにも重要ですが、日本では難聴の自覚のある人のうち補聴器を使用している人はわずか16％と、先進国の中で大きく遅れています。**（右下）**

ゆっくりはっきり

聞こえないということは会話、コミュニケーションがうまくできないということです。そのことによる精神的な負担は、実は大変大きいのです。

補聴器を使っていても、雑音下の聞き取りや、早口の人やもごもご話す人の声は聞き取りにくいなど限界があります。静かな環境下で一人ひとりが話すなど、補聴器以外の工夫も必要です。

加齢性難聴は、快適に聞こえる音域も狭くなるので、大きすぎる音も響いて聞き取れません。話し手は、口を大きく動かして、ゆっくりはっきりやや大きめの声で話しましょう。しっかり話すことはエネルギーを使いますが、喉や口腔の加齢対策になり、その人にとってもプラスになります。

最近では、音声をリアルタイムで文字化するアプリを利用するなどの工夫も広がっています。

勇気を持って

難聴のある方は、やはり勇気を持って「ゆっくりだったらわかるよ」など皆さんに伝えてみましょう。「何度も聞き返すのがつらい」場合は、聞き取れなかった時は首をかしげる、あるいは補聴器を見せるなどして理解を求めるのも良いでしょう。また、「明日なんだって？」「東京で何するの？」と、聞き取れた単語を使って聞き返すことも効果的です。東京の話などしていなかった場合は、その人がまったく聞き取れていなかったことが相手に伝わります。

あきらめるけど あきらめない

老いをどのように受け入れ、乗り越えたらよいのか。私がよく紹介するのは、ラインホルド・ニーバーというアメリカの神学者の言葉です。

「変えることができないものを穏やかに受け入れる力を。変えるべきものを変える勇気を、そして変えられないものと変えるべきものを区別する賢さを与えてください」という祈りの言葉で、「あきらめるけど、あきらめない」の精神です。

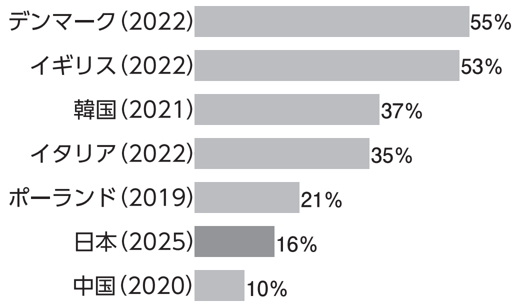
加齢性難聴も加齢の一つ、年をとって弱っていくことは変えられません。ですが、たとえば補聴器を使ってみるとか、今までのライフスタイルを変えて、より快適に暮らす工夫はあるはずです。必要になったら杖を使うこともその一つですね。

「あきらめるけど、あきらめない」心構えは、難聴のある人と暮らす家族にも必要だと思います。あまり言いすぎても、放任でもダメですね。難聴のある本人が主体性を持って、家族は本人のペースを大事にしながら、ポジティブに向き合っていくのがいいかなと思います。

人生100年と言われる時代、誰にでも訪れる難聴を、みんなで上手に乗り越えていけたらと思います。

補聴器後進国、日本

（各国の補聴器普及率比較）



※日本補聴器工業会の資料より作成

難聴の自覚がある人の補聴器使用率は、日本は最下位の中国に次いで下位から２番目。欧米の多くの国では、軽度難聴以上でほぼ100％の補聴器助成があること、聴覚専門の国家資格を持つ「オーディオロジスト」が販売、調整を行うなど制度の違いが背景にある。

女性ニュース

2026. 8. 29

米山会長が訪韓し講演

「韓日歴史正義平和行動」の招待により、新婦人米山淳子会長（憲法共同センター代表）が、８月13日、韓国・ソウルで開催された日韓市民社会国際討論会で基調講演「日韓市民がともにつくる東アジアの平和」をおこなった。金学順（キムハクスン）さんが初めて実名で日本軍「慰安婦」被害を日本政府に告発して35年となる14日のメモリアルデーのイベント、８・15光復節81周年デモ・集会にも参加した。

国会前に1.5万人

「強権政治に声をあげる！主権者は私たち」を掲げて19日、国会正門前に１万5000人（総がかり実行委員会）、全都道府県280ヵ所以上で連帯アクションがとりくまれ、ペンライトを振り、「憲法まもれ」「市民の声で政治を変えよう」と声をあげた。

４閣僚が靖国参拝

高市自維政権発足後初の終戦記念日となる15日に、小泉防衛相ら４閣僚が、侵略戦争を美化する靖国神社へ参拝。自民党を中心に参政党代表、チームみらいなど89人の国会議員が参拝し、首相は玉串料を奉納した。

ＩＣＣ所長に制裁

18日、トランプ米政権は国際刑事裁判所（ＩＣＣ）の赤根智子所長と上級法廷弁護士を制裁対象に指定し、「解体する用意がある」と恫喝。ＩＣＣは同日「国際的な法秩序が危険にさらされる」と非難した。

千葉豪雨 救援・復旧、防災こそ

13日から14日にかけて発生した千葉県の豪雨で、これまでに13人の死亡を確認、住宅の床上・床下浸水は約2700棟に上った。3000台以上の車両が水没し路上に放置。幹線道路からの撤去は進んでいるが住宅街では手つかずのまま残されている。

千葉県本部は各支部につながり状況把握に努めている。床上浸水した八千代支部の会員は「17日までに娘が消毒をしてくれたけど当面は２階での生活」と。マンションの地下駐車場で車が水没した会員も。千葉市内の会員からも給湯器が壊れた、床下浸水などの報告が入っている。大規模冠水で被害の大きい大網白里市では会員宅が床下浸水。農作物の被害も大きく全容把握に時間を要している。

13日夜、市川市内で（会員提供）

罹災証明は「市のホームページに掲載」など、高齢者には不親切な面もあり、県本部として要請を相談している。

救援募金にご協力を

【送り先】郵便振替00150-7-74582
新日本婦人の会　※「千葉豪雨募金」と明記。会員・読者の救援基金は「救援基金」と明記を。